

第2回 JCC農業クラウドWG 大分県様現地ヒアリング議事録

日時:平成23年4月19日(火) 14:00~17:00

場所:大分県庁本館7F 74会議室

参加者:大分県 研究普及課、豊肥振興局、農林水産研究指導センター 本部、同農業研究部、情報政策課、ハイパーネットワーク研究所
西日本農業社、オーエス豊後ファーム、大分部

訪問者:農林水産省大臣官房情報評価課、イーラボ・エクスペリエンス、衛星測位利用推進センター、西日本電信電話、リコー、富士通

【議事内容】

	大分県様	生産者様	農業WG訪問者様
現場の課題	<ul style="list-style-type: none"> 大規模化し、かつ中山間地域に圃場が点在する中、従来の人間による管理では限界。ITによる大規模な圃場管理とノウハウの蓄積を行いたい。 目的は導入でなく、低コストと生産性の向上。 生産現場のコミュニケーションにITが活用できれば。 データの蓄積・システム化により以下のことが期待出来るのではないか。 ・生育予測による安定供給(収量、品質、糖度) ・新たな知見 ・再現性のある育成方法 	<ul style="list-style-type: none"> ITを活用したい業務として以下が上げられる。 ・育成マニュアルの作成 ・圃場管理 ・遠隔での圃場監視 ・圃場毎のコスト管理 ・人件費の管理 ・川上と川下のマッチング ・画像を使用した営農指導 ・集団営農にも適用できる。 農業のIT化が進まないのは水田、畑、酪農等範囲が広すぎるからではないか。 	
自治体の課題	<ul style="list-style-type: none"> 農業クラウドWGの枠組みの中で、現状のヒアリングを通してITの利活用を検討したい。 目的、ゴールの見極めが必要。 県農業試験場で所有する生産や栽培等に関する過去の蓄積データは公表できると考えている。 農業のIT化は、県の取組みとして県下の農家に役立てて頂くが良い。 農業のIT化は、県だけではなく、国も取組む等方法は色々あり、食料安保上も有効。 農業の気象情報は、営農の安定(水稻)を図る目的で「大分県農業気象情報システム」で公開しており、農業クラウドとリンクさせるのも良い。 県が事業主体の場合効果を求められるが、現状は農業とITが効果を明示できるレベルではない。 他県との産地間競争なら県が主体であるが、県内の取り組みであれば民かみならず、模索中である。 ハイパーネットワーク研究所の勉強会での意見は以下のとおりで、H23年度はITと農業に関する研究を行い、1~3年で農業について提案したい。 今までの農業にITが加わり、煩雑になった 新規就農者には有効等 データの活用が出来るか 	<ul style="list-style-type: none"> 県試験場の研究結果等は、紙ではなくデータで公開されると良い クラウドに蓄積された病害虫データ等にアクセスできるようにすれば、利用者が対価を払っても使用する可能性もあり、クラウド活用が広がるのではないか。 地域毎の積算温度の提供をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 農業の他分野同様に共通基盤化を検討すべき。 IT化によりコスト削減が可能であれば、それをベンダに還元する等、最初の合意形成とゴールを決めておいた方が良い。 新しい農業に向けて、クラウドを公設民営で行うことも考えられる。 GISや基盤技術は国や県が主導し効率的に推進すべき クラウドは利用者が増えればコストが下がるため農業、地域、ベンダ等、多くの方に使って頂けるスキームを考えたい。
地図	<ul style="list-style-type: none"> 豊後高田市では地番所有者等が紐付けられたGISを基盤整備で完備しており、新規参入者にアドバイスを実施。また航空写真を使い営農にも活用している。個人情報保護の観点から未公開となっており、使用は庁舎内のみに限定 詳細な地図情報(農地情報)は生産情報等個人と紐付けられており、共有するには個人情報保護の観点から問題がある。 地図情報の基盤化は検討したが、統合はしていない。 白地図に対して属性情報を更新する形にすれば良いのではないか。 戸別補償に関する農地面積は農地基本台帳で実施。 転作確認は、年2回、地元の農業委員会の地図を元に確認。 水土里情報の活用については、目的が決まってから担当部署に相談した方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図の精度が低いために、フリー地図に圃場をマッピングした場合に圃場の位置や形状が現場と合わず、修正するのに手間がかかる。 衛星や航空写真は倍率等の問題があり使いづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図と属性情報は分けたほうが良い。フリー地図は詳細が分からず、水土里情報が良いと思っている。 白地図と属性情報の連携はアプリが取り組んでいるが、標準化は進んでいない。 通信線を敷設する際に道路地図を使用するが、道路情報、電柱情報、管路情報をビズネス化しようとしている。汎用性はあるが個別対応するとコスト的に高くなる。ベンダの工夫と利用者の教育が必要。
衛星		<ul style="list-style-type: none"> GPSの精度が不十分であるため、水田のように個々の形状が同様である場合、隣接する水田との判別が難しいので、作業員の帰社後に聞き取りを行っている。 写真にGPSで位置情報が付与されるので整理に便利。トレーサビリティや原価計算に使える。 	<ul style="list-style-type: none"> GPSの課題は以下のとおりで、改善に取り組みたい ・精度が低い(10m) ・電波が届かない ・時間がかかる等 ・携帯電話のGPSの場合、電波が繋がらない場合は補正が不可能 携帯電話を用いたリアルタイムのデータ処理ではなく、ロギングした位置情報を夕方まとめて出すならば、携帯が不要で広範囲、高精度の測位ができる衛星の利用(超小型受信機の利用)が有利。通信料も不要。

その他	<ul style="list-style-type: none">■川上と川下でIT化の進捗度合いがチグハグだと使いづらいのではないか。■クラウドサービスは、メニュー化し選択出来れば良い。	<ul style="list-style-type: none">■フィールドサーバで各種データの収集は可能であるが、センサが増えてコストが上がる。■当社の農業経営システムは、データ量の多い畜産を高く、少ない野菜を安く価格設定をしている。また、同一品目であれば、匿名化を前提に統計やデータ公開に協力して頂ける利用者には、価格設定を安くし提供しているが、殆どの方が協力して頂ける。
-----	--	---